

ボランティア



発行 ㈩大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

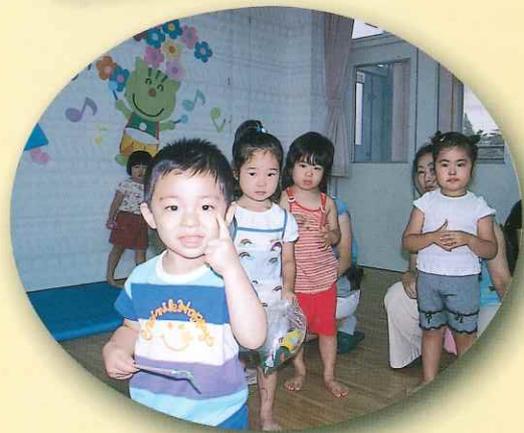
Osaka

Vol. 34
2003 Autumn

『特集』

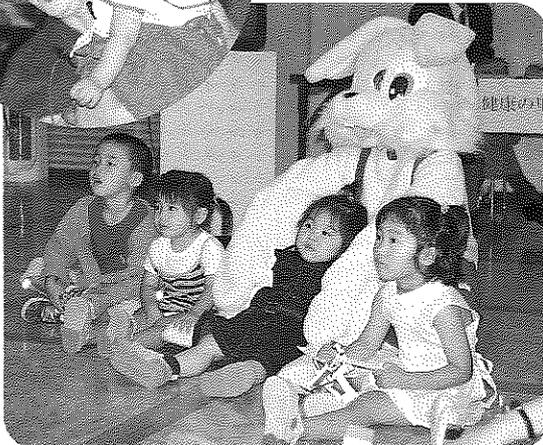
「地域の子育て支援」

を考える



2003 たかつきボランティアフェスティバル

つなげよう! 子どもを育む優しい手



去る7月23日(水)、高槻市総合センター1階展示ホールにおいて、2003年度「たかつきボランティアフェスティバル」が行われました。

今回は「つなげよう! 子どもを育む優しい手」をキャッチフレーズに、地域をあげての子育て支援について、みんなで考えるイベントとして開催。

午前は「食べる・遊ぶ・育む」をテーマに、手づくりおやつを試食会や、朝食の見本展示、栄養士さんによる「食育」についてのお話、手作りおもちゃ等の遊びコーナー、紙芝居のコーナーなどのプログラムが用意され、雨模様にもかかわらず、子育て真っ最中の若いお母さんたちが子どもと一緒に参加しました。

午後からは、大阪成蹊短期大学助教授・寺田恭子さんによる「私の子育て これでもいい?」と題する講演。日吉台・竹の内地区福祉委員会の事例報告を交えたお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



当日、会場には市内の児童施設をはじめNPO法人「SEAN(シーン)」・「高槻子育て支援ネットワークティビー」などもブース出展し、会場の若い母さんたちに団体の活動をPRしながら個別の相談にも対応していました。

また手作りおもちゃ等の遊びコーナーでは、ぶんぶん独楽や竹トンボづくりなどに子どもたちは熱中。夏の一日、子育てについて、みんなで楽しみながら考える一日となりました。

少子化が大きな社会問題となっている現在、地域ぐるみの子育て支援は大きな社会的テーマ。参加者はイベントを楽しみながらも、子育てについてのさまざまなヒントを掴んだようです。

特集

「地域の子育て支援」を考える

「核家族化や都市化のなかで、若い世代が子育ての困難に直面していると
言われています。若い人たちが幼い子どもに接する機会を持たないまま親になる
ケースが増え、このため子育てへの不安感や孤立感を増やし、結果として少子化
を進行させているとも言われています。」

そんななか今年の7月、地域ぐるみの子育て力の再生を目指して「次世代育成
支援対策推進法」が成立しました。これは地域や企業が、家庭における子育てを
孤立させないように、自治体には5年ごとの目標設定を求め、従業員301人以
上の企業には、社員が仕事と子育てを両立できるように、行動計画の作成を義務づ
けて厚生労働省が優良企業を認定するというものです。

こうした少子化対策がより効果を発揮するには、若い世代の子育てを地域がバ
ックアップすることも、また重要であるのは言うまでもありません。

すでに各地で、住民参加型のボランティアな子育て支援、子育てネットが活動
していますが、今回はそうした取り組みを紹介しながら、あらためて地域の子育
て支援について考えてみたいと思います。

子育てには「緊急事態」がつきもの

だから「いつでも、誰でも、どんな理由でも」子どもを預かってくれる施設が必要なのです

羽曳野市社会福祉協議会 ベビーハウス社協



当日は育児ボランティアさんが受付をしたり、駐車場の整備や片付けなど、裏方として支えてくれています

社協が運営する

「24時間対応可能」な認可保育所

昨年4月、大阪府羽曳野市の近鉄南大阪線「高鷲」駅前に、建物を市が用意し、運営は社会福祉協議会が担当する、24時間対応が可能な保育所「ベビーハウス社協」が開設されました。

これは園長に就任した岸和田かおりさんの、それまでの活動に共感した福谷剛藏・羽曳野市長の要請がきっかけとなったもので、「フレキシブルな対応をしてくれる地域の子育てステーション」として若いお母さんたちに大いに喜ばれています。

岸和田さんはこの園長に就任する以前、11年3か月にわたり松原市で「ベビーハウス24」と

いう無認可保育

所を運営して

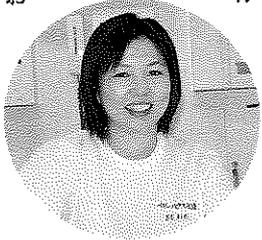
きました。と

いうのも、自

身が子育てで真

っ最中のとき

に、「近所のお



園長の岸和田かおりさん

母さんに大いに助けられた経験があるから」です。

25歳のときに次男を出産した岸和田さんですが、「そのとき長男は2歳。しかし出産のための入院が近づいてきて、長男を預かってくれるところがありませんでした」。そんなときに、同じマンションの上の階に住む女性が気軽に「いつでも上の子を預かるよ」と言ってくれたのだそうです。「それは助かりました。とくに親しい方でもなかったんですが、本当に親切にして下さり、ありがたさが身に染みました」。

そんな経験をすううち、岸和田さんは「必要なときに子どもを預かってくれる施設が、もっと地域社会にあればいいのに」と感じるようになったと言います。

そして平成2年、「社会的なニーズはあるのに、それを受けとめてくれる施設がない。ならば自分で作ろう！」と一念発起、松原市で「ベビーハウス24」という、無認可の24時間型緊急一時保育所を立ち上げました。

*子育てサロン社協

地域で子育てをする親子を対象に毎月1回行っています。定員40組は、あっという間に埋まる人気ぶり。親子で楽しいひとときを過ごせるように、毎回、手遊びや製作、ゲームや人形劇…と、わくわくする内容を保育士さんが企画

「地域の子育て支援」を考える



「ベビーハウス社協」園舎に描かれた虹の線路を走る汽車というモチーフの中には、「きしゃぼっぼ」(緊急一時組)、「はな」(0歳児)、「ほし」(1歳)、「つき」(2歳)、「にじ」(3歳)、「そら」(4歳)、「ゆめ」(5歳)と、それぞれのクラスが散りばめられ、「高橋から世界へ」という願いが込められています。入園式では「夢行き切符」という通園証が、駅長に扮した田中安治羽野野市社会福祉協議会会長より手渡されました(定員90名・一時保育定員20名)

まさしく徒手空拳のスタートです。計画の段階では「そんな福祉活動は、時間的な余裕と経済的な余裕、また心の余裕のある人がするものだ」と夫からも反対されと言います。

そばで見えてくれる人がいなくなれば、子どもにとっては緊急事態なんです

しかし開設してみても、あらためて緊急一時保育所へのニーズの大きさを知ることになります。

「それこそ、急な出張や、臨終の席に出たいので……といったものから、デパートのパーゲンに行きたいから……といったものまで理由は千差万別。でも、はたから見れば親の身勝手にみえる理由でも、子どもには関係ありません。そばで見えてくれる人がいなくなれば、子どもにとっては緊急事態なんです。」
 当時は無認可、24時間型、一時保育のどれをとっても市民権がありませんでした。しかし開設してみると、近隣ばかりでなく近畿一円、さらには全国の遠方からもお母さん方がやってきた。最終的に、登録会員は2300人に膨らんだと言います。

行政からの補助金なしで頑張る岸和田さんの活動に、最初は冷ややかだった周囲の視線も徐々に変化していき、夫もいつしか応援する側に。

紆余曲折はあったものの、やがて岸和田さんの11年間の活動は社会からも注目・評価されることとなり、羽野野市長の「ぜひうちの市でも」との要



カメラに気づき「ハイ、チーズ！」



サロンに参加して帰る子どもたちです

請で、認可保育所「ベビーハウス社協」が開設されました。
 「市長の『あなたの夢の続きを持ち込んでいいよ』との言葉で決心しました」と岸和田さん。それは「24時間型・緊急一時保育」のコンセプトを引き継いでいい、いや大いにそのコンセプトを活かしてほしい……とのメッセージであったのは言うまでもありません。
 そしていま、「ベビーハウス社協」は無認可時代同様、親の仕事の有無や預ける理由に関係なく、また市外の人でも緊急一時預かりを受け付けています。
 「ベビーハウス社協」の建物内には、広い玄関を入ったすぐのところ「子育て応援席」というスペースが設けられています。「親たちが子どもの送迎時、ここで雑談する中で互いの悩みを話し

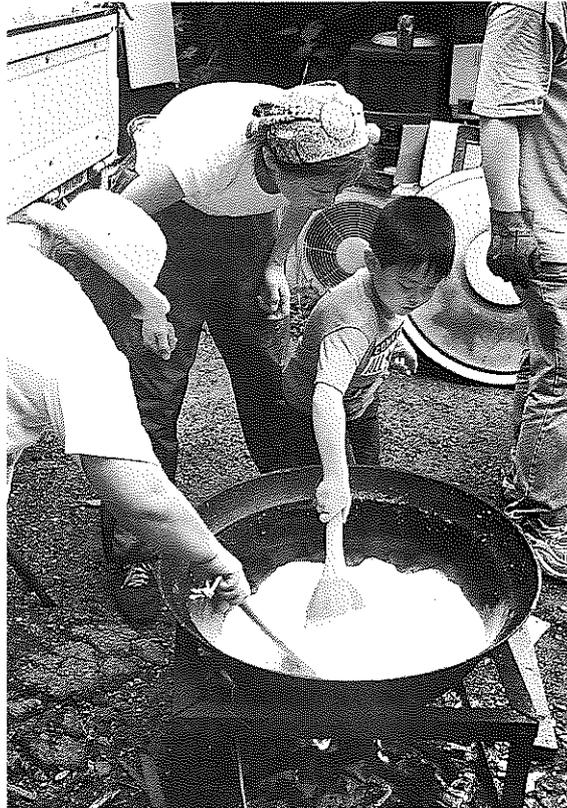
合い、相談できる場があれば……」との思いから設けられたスペースです。またここでは月に一度、子育てサロンも開かれています。
 子育てサロンは羽野野市内8か所で開催している、子育て真っ最中の親の集まりですが、そのうちの一つがここで開かれています。
 また羽野野社協では、ここで「育児ボランティア養成講座」も開き、「ベビーハウス社協」はまさに、地域の子育て総合ステーションともいうべき空間です。ますますの充実と発展、そして近隣市町村への波及が望まれます。

冒険遊び場

森のプレーパーク

自分の責任で自由に遊ぶ 冒険遊び場 森のプレーパーク

子どもと遊びのネットワーク・八尾



たき火に大なべをかけて、
わらび餅づくり

木のぼりができて…、
たき火ができて…、

八尾市に、毎回、高安山の麓で子どもたちと一緒に野外活動に取り組んでいるグループがあります。若いお母さんにお父さんも交じり、豊かに自然の中で伸び伸びと子どもたちを遊ばせ、その生きる力を培っていかうというユ

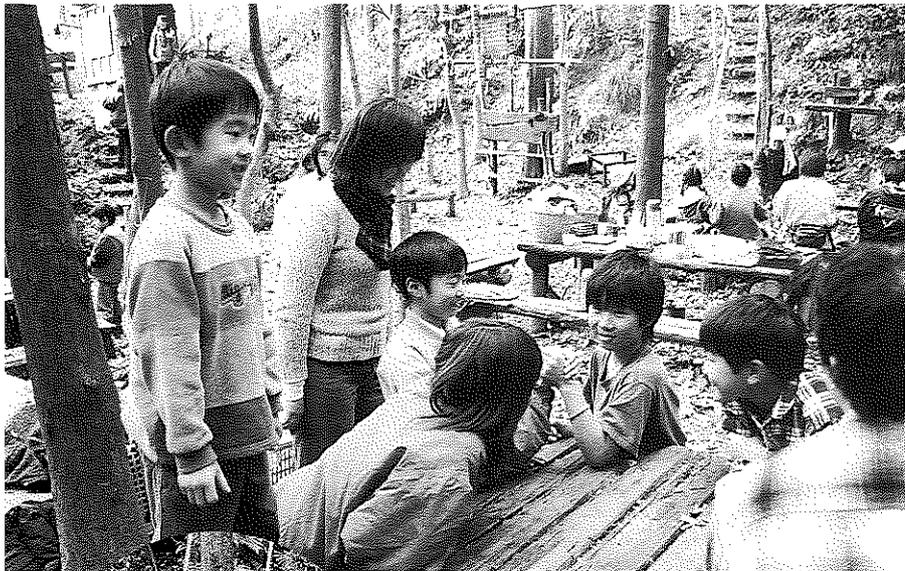
ニークな活動です。プログラムの名称は「冒険遊び場 森のプレーパーク」。
まずは、この活動に取り組む「子どもと遊びのネットワーク・八尾」のパンフレットの一文を紹介しましょう。

◆ プレーパークには、自分たちで創り出していく喜びがある。整備された遊具をあえて使わずに穴掘りができて… たき火ができて… 基地がつくれて… そんな遊び場が近くにあるといいなと思いませんか。
火や水や土などの自然素材は放っておいても子どもたちの好奇心をかきたてるものです。何度も成功や失敗を繰り返して、やり直しができるといふ体験は遊びの中で心を鍛え、生きる力を育んでいくことになるのではないのでしょうか。
プレーパークとは「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして
できるだけ禁止事項を掲げず

大人も子どもも夢中になって遊ぶことのできる場所です。誰もが楽しく遊ぶためには、それなりの責任が伴います。使った道具は片付ける、人や自然を傷つけない、ケガは自分の責任と考える、など社会生活のあたり前のルールです。みんなの協力で
楽しい遊び場を創りましょう

◆ 活動のスタートは今から6年前、八尾市が市政50周年を記念し、市民活動の自主企画を募集したことに始まりま。それに応募したのが現在、代表を務める高橋哲美さん。「当時から子育て関係の活動はしていましたが、提出した企画案は、公園を使って冒険遊びをしよう!というものでした。結果的に公園の使用は許可されなかったものの、企画案は評価されて市の助成対象に。これで弾みがつき、ほどなく私有地の山林を地主さんの好意でお借りすることができ、現在の場所でプレーパークを始めることになりました」と高橋さんは語ります。

「地域の子育て支援」を考える



学生ボランティアのお兄さん、お姉さんたちと腕ずも

みんなでパンを焼いたり
焼きそばを作ったり

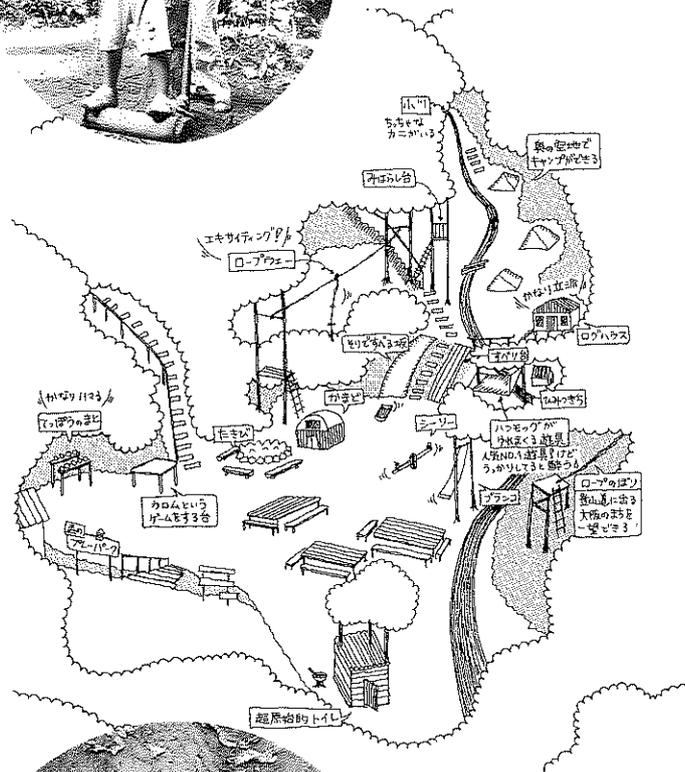
活動の輪は次第に広がり、いまでは毎回、参加者は50〜60人にのぼると言います。

毎月の第3日曜に、高安山のおもとの恩智神社ちかくの森に集まり、木のほりや崖のほり、坂すべりや泥なげなどの「やんちゃな遊び」を楽しみますが、昼食には、みんなでパンを焼いたり焼きそばを作ったり、ときには竹を切って流しソーメンも楽しめます。

「家族で遊ぼう」と書いたチラシをもったのが参加するようになったきっかけです。子どもが学校以外の異世代の子と遊べるのがいいですね」と語る



プレーパークのブランコはダイナミック！慣れていない子はちょっとこわごわ



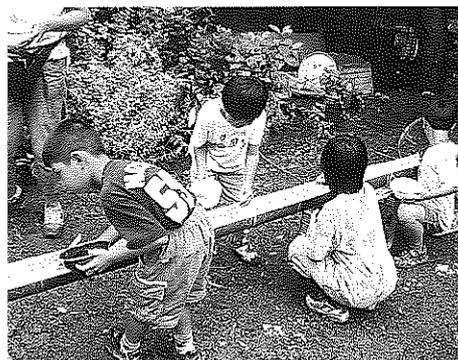
のは伊東朋子さん。また6年前から参加しているという粕本さゆみさんは、「毎回2年生の息子と参加しますが、学校で網登りや鬼ごっこをしてもカッコよくできるよ、と自慢しています」と冒険遊びの「効果」を語ります。

しかしそんな運動能力が身につくよりも、自然に親しむことで、それを大切に、小さな生き物や、ひいては周囲の人たちを大切に心、そして自分自身たくましく生きていく力が育まれるのが、プレーパークの最大の魅力のようです。

「たき火を知らない最近の子どもの中には、火を描かせると炎を青く塗る子がいるそうです。また煙を、臭い」という子もいる。青い炎はガスの火しか知



山の斜面でそり遊び



プレーパークキャンプのお楽しみ、流しソーめん

らないからで、煙が臭いのは、けむい」というボキャブラリーがないからだと思えます。そんな子どもたちこそ、プレーパークで思いっ切り遊んでほしいです」と高橋さん。

地域の、若い親と子どもたちが一緒に参加する、素敵な手づくりの野外活動プログラムです。

府立高校内に 「子育てサポートルーム」がオープン

西エンゼル広場（堺市）

**NPO法人が、
地域やボランティアの
協力を得て運営**

地域でさまざまな子育て支援が取り組まれるなか、大阪府立堺上高等学校の空き教室を利用して、「西まちかど子育てサポートルーム（西エンゼル広場）」が設置され、8月1日に開所式が行われた。運営にあたるのは、堺市から委託された、NPO法人青少年育成審議会「SI（理事長・吉村憂希さん）。同会はさまざまな活動を通じて青少年の健全育成をはかることを目的としたNPO法人。18年前から不登校や子育て問題などに取り組んできました。

「西エンゼル広場は、子育て中の親子が誰でも自由に参加・交流できる場で、育児の不安・悩みをもつ親子が、地域の人たちやボランティアに支えられ、相談や支援を受けられる場でもあります。堺市内で数カ所開設される予定ですが、西エンゼル広場はその第1号としてオープンしたものです。親子の交流や遊びを通じて、生きた情報交換を図って、子育ての楽しさを発見してほしい」と吉村さん。西エンゼル広場は火・木・金の週3

読みかせサークル「ママのまほう」による紙芝居



のびのび遊べるようにと空き教室を改装し、カーペット敷きに。親子で楽しいひとときを過ごしました

回、午前10時から午後4時まで開かれ、同会のスタッフとともに、さまざまなボランティア団体が協力していくことになっています。

「サポートルームは、私たちのスタッフだけが運営するのではなく、地域の人々やボランティア・NPO団体など幅

広いつながりで支えていくもの。多くの方々に参加していただき、知恵を出し合って、楽しい場にしていきたいと考えています。

開所式では、そんなボランティア団体のひとつ、読みかせサークル「ママのまほう」が、「赤ずきんちゃん」を身ぶ



開所式であいさつをするNPO法人青少年育成審議会JSIの吉村憂希理事長

り手ぶりを交えながら、紙芝居形式で朗読。集まった子どもたちは熱心に聞き入っていました。

また、堺上高等学校・ダンス同好会の生徒が飛び入りでダンスを披露。軽快な踊りに大きな拍手が送られました。

同校の宮村誠一校長は、「平常の教育活動とNPO活動が並行して行われるのは、府内でも初めての試み。西エンゼル広場の存在が、生徒の福祉への関心を高めるきっかけになると期待しています。今後は、育児や介護の選択科目を設けたい」と語ります。

開所式のあと、さっそく親子がいつしよに歌を歌ったり、おもちゃで遊んだり…。楽しいひとときを過ごしていました。ある参加者は「子育てで不安に思うことも多いので、ここで友だちをみつけたり、先輩おかあさんに相談できれば」と話します。

エンゼル広場は「あいさつから始まる、心の交流」が合言葉。地域やボランティアに支えられて、子育て支援の輪が広がっていくことを期待したいものです。

子育ての悩みをホンネで語り合う

へアへアくらぶ(太子町)

肩肘張らない
楽しい雰囲気を大切に

太子町では15年前より、「ベアベアクラブ」という子育て支援事業が取り組まれていきます。「慣れない育児、生活の上のまどいなどを持ちながら、地域の

中で相談者を見い出せないまま孤立して悩んでいる母親が、互いの悩みを話し合い、解決のきっかけをつかむ会として昭和63年に発足しました」と太子町社会福祉協議会事務局長の上野光栄さん。



した。「同じ年頃の子を持つ母親同士、ホンネを話し合うなかで、それぞれ子育てのヒントを掴んで帰られました」と上野さん。

写真は今年7月17日に行われた定例会で、この日は親子体操、ゲーム

などを楽しみ、お年寄りの「ふれあい農園」で穫れたスイカをおいしくいただきました。この日も、若いお母さんをサポートするため「大きいおかあさん」たちがボランティアで大



体操やゲームを楽しんだあと、みんなでスイカをいただきました(7月17日の定例会)

参加者は就園前の子どもと、その母親です。その母親で1と第3木曜の午前中(10時~11時)、公民館や体育館などに集まり、親子遊びや話し合いが行われます。また年2回、春と秋にはハイキングが企画され、毎年「子育て相談会」も開催されます。

昨年は育児の専門家を講師に招き、講演を聞いたあと参加者は3つのグループに分かれて、「発育段階についての悩みや思い」「自分自身についての悩みや思い」「人間関係についての悩みや思い」について話し合いま



子育ては、人生の中で「すばらしさ」「充実感」を味わう、またとないチャンス

活躍。11月には「いも掘り」が予定されていますが、当日も、豊富な子育て経験を持つ「大きいおかあさん」がサポートしてくれる予定です。
寝ない、食べない、しゃべらないに始まって、すぐ叩いてしまう、子どもへの接し方がわからない、夫の協力が得られない...など、若いお母さんはいろんな悩みを持っています。それを地域のおばあちゃんを含めて、みんなでサポートしていくのがベアベアクラブ。肩肘張らない楽しい雰囲気を大切にした、子育てを地域で支える活動です。



「地域の子育て支援」を考える



柏原市のファミリー・サポート・センターでアドバイザーとして活躍する笹倉克美さん(左)と樽井律子さん



「子育ての援助を受けたい人」と、「援助したい人」をつなぐ

ファミリー・サポート・センター(柏原市)

ファミリー・サポート事業は、育児の援助を受けたい人と、援助を行いたい人をアドバイザーが仲介することで、若いお母さんの子育てを地域が支援する活動です。大阪府内でも別表のように、半数以上の市町村で事業が始まっていますが、ここでは昨年からの事業に取り組んできた柏原市の事例を紹介しましょう。

柏原市のファミリー・サポート・センターがスタートしたのは昨年の4月。市からの委託事業として柏原市社会福祉協議会が運営を担い、すでに190名を超える会員を組織しています。

「会員には依頼会員、援助会員、両方会員の3種類がありますが、平成15年8月現在で、依頼会員が97名、援助会員が74名、両方会員が28名となっています。スタートして一年半ですが、会員数と活動件数は順調に伸びています」と柏原市社協の担当職員の前川阿紀子さんは語ります。

依頼会員とはその名の通り、おおむね3ヶ月から小学4年生までの子どもを持ち、育児の援助を受けたい人がメンバーになります。援助会員はボランティアに依頼会員の援助を行いたい人がメンバーになり、その両方に登録している人が両方会員です。

援助会員の活動はいわゆる有償ボラ

ンティア活動で、依頼会員は、1時間あたり700円の利用料金を援助会員に支払う仕組みになっています。「午前7時以前、午後7時以降の時

間帯は800円となりますが、働くお母さんを中心に、保育所の送り迎えや急な病気や用事の際、気軽に利用できると好評です」とも前川さん。

いまのところ宿泊を伴う援助はしていないようですが、援助会員の側も「久しぶりの子育てが楽しい」「子どもさんを預かることで元気がもたえます」と、これまた好評とか。

ファミリー・サポート・センターは今後、未開設の市町村でも順次開設されていく予定です。

大阪府内のファミリー・サポート・センター

平成15年8月1日現在

- ◆貝塚市ファミリー・サポート・センター
TEL/0724-33-7050
FAX/0724-33-7051
- ◆とよなかファミリー・サポート・センター
TEL/06-6850-8651
FAX/06-6857-2006
- ◆いばらきファミリー・サポート・センター
TEL/072-620-7101
FAX/072-620-7131
- ◆はびきのファミリー・サポート・センター
TEL/0729-56-4943
FAX/0729-56-4943
- ◆大阪市ファミリー・サポート・センター
TEL/06-6354-0617
FAX/06-6354-0277
- ◆堺市ファミリー・サポート・センター
TEL/072-222-8066
FAX/072-222-8066
- ◆いけだファミリー・サポート・センター
TEL/072-751-0422
FAX/072-753-3444
- ◆すいたファミリー・サポート・センター
TEL/06-6384-7820
- ◆枚方市ファミリー・サポート・センター
TEL/072-805-3522
FAX/072-805-3524
- ◆富田林市ファミリー・サポート・センター
TEL/0721-25-1000 (内線178)
FAX/0721-24-8976
- ◆寝屋川市ファミリー・サポート・センター
TEL/072-839-8817
FAX/072-839-8816
- ◆おおさかさやまファミリー・サポート・センター
TEL/072-366-0011 (内線319)
FAX/072-366-9696
- ◆きしわだファミリー・サポート・センター
TEL/0724-37-7933
FAX/0724-37-7933
- ◆もりくちファミリー・サポート・センター
TEL/06-6995-7877
FAX/06-6995-7855
- ◆やおファミリー・サポート・センター
TEL/0729-24-3657
FAX/0729-25-1161
- ◆かわちながのファミリー・サポート・センター
TEL/0721-50-4670
FAX/0721-50-4671
- ◆いずみファミリー・サポート・センター
TEL/0725-43-7922
FAX/0725-41-3154
- ◆藤井寺ファミリー・サポート・センター
TEL/0729-39-1111 (内線1435)
FAX/0729-52-9503
- ◆松原市ファミリー・サポート・センター
TEL/072-337-3119
FAX/072-337-3007
- ◆大東市ファミリー・サポート・センター
TEL/072-870-8993
FAX/072-870-8994
- ◆かしわらファミリー・サポート・センター
TEL/0729-72-6760
FAX/0729-72-6760
- ◆東大阪市ファミリー・サポート・センター
TEL/06-6789-7201
FAX/06-6789-2924
- ◆みのおファミリー・サポート・センター
TEL/072-727-9524
FAX/072-727-9524

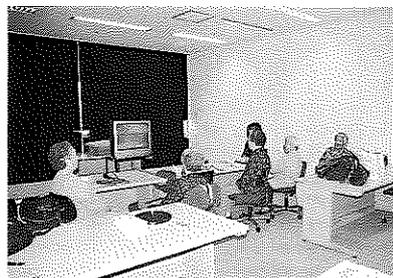
Hello! ボランティアセンター

泉南市社会福祉協議会 ボランティアセンター

泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内
TEL 0724-83-0294
FAX 0724-83-0294

センターの運営にもボランティアが活躍

南海電鉄「樽井」駅とJR「和泉砂川」駅を結ぶ、泉南市を横断するメイン道路に面して建つ「泉南市総合福祉センター」（あいびあ泉南）。この新しい建物の3階に



カラオケを楽しむ高齢者の皆さん

入っているのが泉南市ボランティアセンターで、現在9つの登録グループと、約100人の個人登録ボランティアが多彩な活動を展開しています。

泉南市ボランティアセンターの特徴は、昭和56年から泉南市ボランティア協会という草の根の市民グループが活動しており、それとの緊密な連携で発足したという点

です。「そのぶん、センターの運営は市民ボランティアが中心になって担っています。ですから他に比べれば、より市民に開かれたボランティアセンターと言えるのではないかと思いますよ」



コーディネーターの
扇谷由希子さん

とコーディネーターの扇谷由希子さん。

9つの登録グループは、外出介助・手話・保育・ミニデイ・清掃・紙芝居・朗読と訪問・作業所支援・喫茶運営の分野で自主的に活動していますが、その他に農園・給食配送・運転・ハイキングなどの「社協直営的」な活動もいくつかあり、活動メニューは豊富に揃っています。さらに市内の福祉施設やNPO法人などとの連携も活発で、「ボランティアフェスティバルなどでは、これらのネットワークでイベントを大いに盛り上げました」とも扇谷さん。この夏には紙芝居グループによる「子ども手作り紙芝居教室」や、ハンディキャップをもつ子どもたちのための「サマースクール」などを開催。その活動は年々、活発化しています。

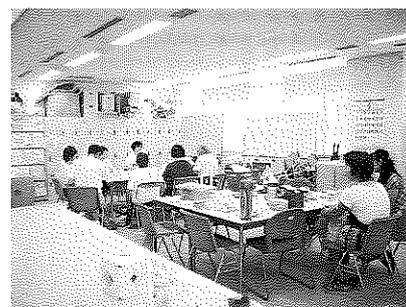
八尾市社会福祉協議会 サポートやおボランティアセンター

八尾市青山町4-4-18
八尾市在宅福祉サービスネットワークセンター内
TEL 0729-25-1107
FAX 0729-25-5126

センターと同じ建物内に“活動の場”を用意

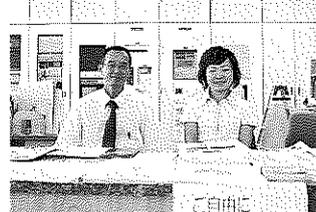
5年前に八尾市青山町にオープンした「サポートやお」は、高齢者のための養護老人ホームやデイサービスセンター、在宅介護支援センターやケアプランセンターが入り、また障害者のデイサービスやショートステイ事業などを行っている総合的なサポートセンターです。

そしてこの開設と同時に、それまでの社会福祉会館から「サポートやおボランティアセンター」と名称変更し移ってきたのが八尾のボランティアセンターです。



センターはボランティアの出入りでいつも賑わっています。

「現在でも運転ボランティアなど、一部は社会福祉会館を拠点に活動していますが、“サポートやお”には、高齢者や障害者のためのさまざまな施設が集中しています。また、ここでファミリー・サポート事業をボランティアセンターの事業としても行っており、そんな関係で現在はここを拠点に活動しています。何かをしたい…と相談に来られた市民の皆さんが、施設を見学されてそのまま活動に入られるケースも少なくありません。ボランティアセンターと同じ建物内に“活動の場”が用意されているわけで、これが八尾の特徴であり強みかもしれませんね」とコーディネーターの吉原武さんと藤田明里さん。



コーディネーターの吉原さん（左）と藤田さん

現在、19の団体と180人の個人登録ボランティアを組織していますが、センターにはパソコンやコピー機が完備した部屋を用意して、こうした市民の活動をバックアップ。また広報紙「ボランティアだより」や「ボランティアガイドブック」などの発行で啓発活動にも力を入れています。

北摂

『防災訓練』に参加

能勢町

去る8月30日、平成15年度の豊能地区3市2町合同防災訓練が能勢町名月グラウンドで開催され、能勢町ボランティア連絡会より25名が参加しました。

当日は汗びっしょりになりながら、「初期消火訓練」「水道管復旧・応急給水訓練」、そして「非常食炊き出し訓練」に参加しました。

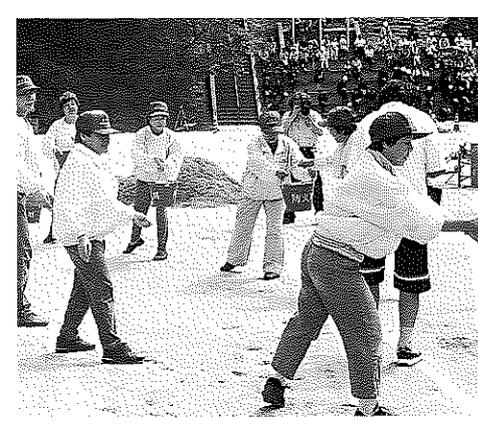
「初期消火訓練」では、能勢町消防団・能勢町職員の皆さんと消火器やバケツを使用し(バケツリレー)、倒壊



訓練をし、「水道管復旧・応急給水訓練」では地震により破損した配水管を復旧するとともに、仮設応急水栓を設置し、飲料水袋を使用して飲料水の確保を図る訓練がなされました。そして

「非常食炊き出し訓練」では、避難所生活を余儀なくされた住民への食料として非常食(アルファ化米)の炊き出し訓練が行われ、この訓練では「お弁当調理ボランティア」の皆さんが日頃の活動経験を大いに発揮され、充実した一日となりました。

参加したメンバーたちは、「暑かったけどいい経験になった」「バケツリレーは生まれて初めて経験した」など、さまざまな意見を述べていました。



河北

第10回記念ボランティアフェスティバルを盛大に開催

守口市

今年も満員の盛況ぶりでした。また大ホールでは、原会長より10周年の感謝の気持ちを来場している皆さんに伝えました。

この催しを長年続けてこられたのも、市民の皆さんにボランティアのことを理解していただき、ボランティア活動の大切さや、活動内容の多さなどを知ってもらう機会として活用してきたからだと思います。

会場内では、各ボランティアグループがそれぞれ模擬店やバザーを出店し、特設ステージでは紙芝居や人形劇、歌体操、銭太鼓など、日頃の活動を見てもらおうとステージいっぱい披露し、おりがみ教室や手作りおもちゃ教室、点字教室は子どもたちに大人気でした。

参加した市民の皆さんに、高齢者疑似体験や車椅子体験をしてもらおうと、事前に研修を受けたボランティア推進部員たちが熱心に指導していました。

このボランティアフェスティバル全体を通して、会場を広げ、混雑が少なくなるよう心がけ、各グループから会場内の役割にも参加があり盛況のうちには終えることができました。



今年の守口市社会福祉協議会ボランティアフェスティバルは、10周年という節目を迎え7月19日に開催されました。オープニングセレモニーにはたくさんの市民にお集まりいただき、原会長による開会宣言の後、淀川工業高校吹奏楽部のファンファールが、オープニングに花を添えました。

大ホールでは淀工吹奏楽部1年生によるファーストコンサートが行われ、



河南

来て・見てボランティア展

柏原市

第1回 門真市ボランティアグループ 連絡会ボランティアフェスティバル

門真市内のボランティアグループが、「環境とリサイクル」をテーマに日ごろの活動を多くの市民の方に知ってもらうために開催します。

日時：平成15年11月16日（日）
10：00～15：00

場所：門真市リサイクルプラザ（エコ・パーク）
4F
門真市深田町19-5
TEL 06-6909-4431
京阪電車門真市駅 南へ徒歩10分

- 内容：○近隣の幼稚園児の鼓笛隊による演奏
○ボランティアグループ活動紹介
- 1、パネル展示による啓発
 - 2、マジック、車椅子ダンス、朗読等のパフォーマンス
 - 3、介護用品の展示・販売
 - 4、リサイクル作品の展示・販売

問合せ：門真市ボランティアセンター
TEL 06-6902-6453

平成15年9月6日（土）、柏原市ボランティア連絡会では手作りの「来て・見てボランティア展」を柏原市健康福祉センター（通称オアシス）で開催しました。

このボランティア展は各ボランティアグループが日頃の活動と内容を広く一般の方々にも知って頂き、理解を得るためのPRと、ボランティア会員相互の親睦を目的として開催しています。

ボランティア展は畠山会長の開会挨拶、柏原市市長、柏原市議会議員、副議長のご挨拶を頂き、基調講演には特別講師として、和歌山県有田市在住の



青年海外協力隊に参加された、みかん農園経営の大浦靖生氏をお招きして『タイで梅干つくり〜2年半の国際協力てんやわんや記〜』をテーマに、タイでの梅干つくりから販売に至るまでの経緯や現地での生活、指導などエピソードを交えて楽しいお話をさせて頂きました。



した。

講演終了後、それぞれのブースに戻り来場者に対応しました。

会場は1階と3階の2会場に分け、活動グループを大別して「参加体験型」と、「見て聴いて楽しむ観聴型」グループに分けて行いました。

まず「参加体験型」は主として色々な物作りに参加し体験することでお互いに楽しむ、例えば、端切れなどを利用して小物を作る手芸、間伐材を使った自然木工細工、手作りの絵手紙、ミニ掛け軸作りなど。一方「観聴型」は主に高齢者の方々に見て楽しんで頂く舞踊、聴いて楽しむ大正琴演奏、コーラス、ハンドベル演奏やいきいき歌体操など、また子ども向けには人形劇、紙芝居、絵本の読み聞かせなどでお互いが楽しむなど。

その他介護用品の展示と対話、自助具の展示と対話やフラワーアレンジ品の展示などで多くのご来場の方々からご好評を頂き、明日からまた新たな気持ちでボランティア活動にがんばりたいと思っております。

柏原市ボランティア連絡会
広報担当 米田 直史



泉州

青春Vネットワーク
「過ぎ行く夏を楽しもう!!」に
参加して

岸和田市



8月31日(日)、大阪府羽衣青少年センターにて開催されました「青春Vネットワーク」に参加してきました。当日の参加者は30名。「青春Vネットワーク」とは、岸和田市ボランティアセンターで活動している若者たち(高校生～30代)を中心に構成されており、ボランティア活動をする上でいろいろな悩み等を共有できる場をつくらう

との呼びかけで発足したそうです。

当日は17時集合(中心スタッフの方々はもっと前から頑張っておられた様子、ご苦労様でした)。司会者の挨拶に始まり、自己紹介、ミニゲームによるグループ分けとテンポよく流れていき、パーベキューの際には各グループ共、それぞれのボランティア活動をしていく上での悩み等が話し合われ、大いに盛り上がりおりました。

18時30分より、場所を移しての「キャンプファイヤー」。リーダーの方のリードによる簡単なゲーム、フォークダンス、さらに蛇味線とギターによる伴奏も入った「SMAP」と「BEGIN」の歌の大合唱。そして最後には、若者によるファイヤーダンス(ハワイで男性が両手にたいまつを持って踊るダンス)、これには参加者一同びっくり!拍手喝采。最後の最後まで楽しませていただきました。今後ともこうした催しにより「青春Vネットワーク」の若者たち同士の交流がさらに深まることを期待しています。

和泉ボランティア市民プラザ
「アイ・あいロビー」運営委員長

東 節子

バリアフリー部会を開催

平成16年度第2回バリアフリー部会が8月18日に開かれました。

今回、話題にのぼったのは情報伝達という点から、視覚障害者へのバリアについてでした。

バリアフリーというと車椅子利用者や視覚障害のある方に対しての道路や施設の構造面に意識が向きがちですが、見た目にはわかりにくい聴力障害者に対する対応が遅れているのではないかとこの意見が出ました。

生まれつき聴力に障害のある人は、手話を言葉の伝達手段としてきてるので、文字を読んでもすばやく意味を理解することができにくい人が多い。逆に中途失聴者では手話を覚えにくいので、文字のほろがよく伝わる。だから講演会などでは、要約筆記と手話通訳の両方が必要である。狭い道などで自転車などが近づいてきてわからず、怒られたことがある(難聴者)

手話通訳でも100%伝えることができない。聴覚障害者は通訳してもらっていないことがあると感じたとき、周囲から疎外されたように思われることがあるので、聴覚障害のある方の心理を理解しなければいけない。

手話にも方言のように地方性があるが標準化が必要ではないか? 駅で事故などが起こったときもア

ナウンズが聞こえないので訳がわからず困ることがあるので電光掲示板の設置が望まれる。病院で順番を待つて呼び出されても聞こえなくてわからないことがある。

わが国の国民性なのか町で困っている人がいてもさっと手を出す人が少ないという意見もありましたが、設備が不十分であっても人の心が暖かければ、バリアを感じずに、街に出て行けるのではないかとこの話になりました。しかしいちいち「おねがいします」と言わなければ自由に歩けない町というのは、少し寂しい気がします。

その他には、バリアに関するある調査で放置自転車や商店が置いた看板など、人が作っているバリアも多という結果がでてきていることや、バリアは障害者といわれる人たちだけでなく、性によっても起こりうるという話も出ました。

参加者14名で、話はあつちいったりこつちにきたりと系統的にまとまった話にはならなかったのですが、わいわいがやがやと井戸端会議的な話の中に、私たちの意識改革のヒントが見つかったのではないかと思います。

交野市ボランティアグループ
連絡会 栗原 清美子

■広がり！ボランティアの輪 in みのおフェスタ
いきいき祭り
〜こころつながる 新し〜

日時／平成15年11月8日(土) 10時から
15時
場所／かやの中央 みのお市民活動セン
ターおよび周辺

内容／木工細工、布おもちゃづくり、ア
ートバルーン、シニア体験、人形
劇他 小中学生の絵コンクール、
ボランティア相談窓口

主催／社会福祉法人 箕面市社会福祉協
議会

広がり！ボランティアの輪 in み
のおフェスタ実行委員会
後援／箕面市・箕面市教育委員会

■ボランティアセンター20周年記念事業
「バリア・フリー・トーク」
〜ケイコゼミの公開講座〜

ボランティアセンター日より ボラ箋
大人気コラム「バリア・フリー・トーク
(ケイコゼミのこぼれ話)」の著者、加納
恵子さんをお招きします。(入場無料)

日時／平成15年11月9日(日) 13時30分〜

16時
場所／かやの中央 みのお市民活動セン
ター 多目的室

基調講演／光華女子大学 加納恵子さん
パネルディスカッション／光華女子大学
加納恵子さん 田中滋子さん 梅
花女子大学院生 今井雅子さん他

■ふくしまつり 運営ボランティア
大募集！

福祉関係団体やボランティアグループ
のみなさんの力を合わせて開催します。
できるだけたくさんお友だちを誘って、
一緒にお手伝いしてください。

日時／平成15年11月9日(日) 雨天決行
集合時間／午前9時30分(10時スタート)
解散予定／午後5時
集合・開催場所／藤井寺市立福祉会館

(ふれあいセンター)
当日の役割／会場設営、会場清掃、体験
コーナーの受付・整理、障害をお
持ちの来客者の案内・補助、会場
までの誘導、駐輪場の整備、物品
の運搬など

募集人数／30人(男女問わず)
問合せ先／藤井寺市社会福祉協議会ボラ
ンティアセンター

TEL 0729(38)8220

■編物教室に参加しませんか

高齢者外出介助の会では、毎月第2水
曜の13時30分から、大阪社会福祉研修セ
ンター地下1階にて表記の催しを開催し
ています。先生2人に来ていただき、初
めの方でも手とり足とり、誰でもでき
るように教えていただいています(参加
費用500円)。

連絡先／高齢者外出介助の会

TEL・FAX
06(6764)4002

ONP分室からのお知らせ

■ボランティアのJUV. NAOSJUV.
「はじめ」から「これから」まで
相談コーナーを開設しています

ボランティア・NPOに関することに
ついて、コーディネーターが幅広くお応
えいたします。

日時／毎週木曜の14時〜17時
場所／大阪NPOプラザ2階 大阪YM
CA市民活動推進センター

大阪市福島区吉野4-29-20

主催／大阪府ボランティア・市民活動セ
ンター 大阪YMCA市民活動推
進センター

問合せ／FAX06(6762)9679
e-mail/osakavc@osakatsuyakyo.or.jp

■大阪NPOプラザ1周年記念
イベント「ONPフェスタ」

大阪における市民活動の総合支援拠点
「大阪NPOプラザ」が、開設1周年記念
の催しを開催します。(予定)

10月26日(日)「ライブイベント」

●園芸療法プログラム

10月31日(金)

●あらたな生きがいの創出

●宅老所・グループホームの可能性

●NPO／NGOの国際協力を考える

●「協働」と自治のフォーラム

●ボランティア・NPO市民交流サロン

●大阪ボランティア協会・英語情報
強化チームEボラ

強化チームEボラ

11月1日(土)

●はじめのNPO説明会

●あらたな生きがいの創出

●開発教育って何？

●さあ選ぼう！介護保険サービス！

●OSAKA NPOアワード2008

●大阪ボランティア協会・英語情報
強化チームEボラ

●英語手話講座〜アメリカの手話を
中心に〜

11月2日(日)

●チヨコット栄養診断

●病院ボランティアって？

●障害のある子もいない子もよついで！

●自己を助け、地域を救う

●「しつとりハーブ水」作り

●HIV/AIDSのご知っていますか？

●大阪のボランティア活動
〜いろいろは相談コーナー〜

このプログラムはそれぞれ、ONP入
居団体が主催します。詳しい内容・時間
帯等は、NPOプラザ事務局を通じて各
主催団体にお問い合わせください。その
他バザーや模擬店、ステージのパフォー
マンスなどでイベントを盛り上げます。

問合せ 大阪NPOプラザ事務局

TEL 06(6465)8390



ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

		ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険	
補償内容		ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。	
補償金額	損害部分	本人のケガ	Bプラン 死亡・後遺障害 2,445.6万円 入院(1日あたり) 8,700円 通院(1日あたり) 5,600円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		本人のケガ	Cプラン(天災担保) 死亡・後遺障害 1,102.4万円 入院(1日あたり) 5,900円 通院(1日あたり) 3,800円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		特定感染症	補償します
		天災	×
		賠償部分	対人、対物共通 最高 4億円
見舞金	死亡	死亡 30万円	
掛金	ボランティア1名 年間(中途加入でも同じ) 500円		
加入できる人や対象となる活動	・無償であること(交通費、食事代など除く) ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入の場合は受付日の翌日から)		

		各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険	
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。	
補償金額	損害部分	本人のケガ	I型(宿泊なし) 死亡 500万円 後遺障害 15~500万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		本人のケガ	II型(宿泊あり) 死亡 500万円 後遺障害 15~500万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		賠償部分	対人 1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円
		賠償部分	対物 1事故あたり 最高500万円
		見舞金	死亡
掛金	I型 A区分 30円 B区分 128円 C区分 251円		
加入できる人や対象となる活動	ボランティア団体や市民団体が主催する行事 (スポーツ活動や自助活動も含む)		
保険有効期間	行事期間中 (開催1週間前までに受付が必要)		

		各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険	
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。	
補償金額	損害部分	本人のケガ	Aプラン 死亡 202万円 後遺障害 6~202万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		本人のケガ	Bプラン 死亡 500万円 後遺障害 15~500万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		賠償部分	対人 1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円
		賠償部分	対物 500万円
		見舞金	死亡
掛金	Aプラン 4,900円		
加入できる人や対象となる活動	営利目的ではないか利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)		

		移送サービス活動に 移送中事故傷害保険	
補償内容		移送サービス事業の活動中に、車輦に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。	
補償金額	損害部分	本人のケガ	I型(車輦特定) 死亡 266.1万円 後遺障害 7.9~266.1万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		本人のケガ	II型(車輦不特定) 死亡 192.4万円 後遺障害 5.7~192.4万円 入院(1日あたり) 3,000円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金/入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		賠償部分	対人
		賠償部分	対物
		見舞金	死亡
掛金	I型 2,000円(車定員1名あたり)		
加入できる人や対象となる活動	移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)		

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みにください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com カスタマーセンター ☎ 0120-63-2277

携帯電話・PHSからはTEL.03-3615-3111 受付時間 平日9:15~20:00 土日祝日9:15~17:00

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所

〒541-0054 大阪市中央区南本町3丁目5番14号 有楽ビル3階

TEL.06-6252-4519 FAX.06-6245-4686